

学長 3 期目前半の主な取り組み

(2022年4月1日～2023年9月1日)

●：2期目までに始めた事業

青字：2期目までに行った内容

黒字：【3期目前半の進展】

(注) 2期目までに完成した事業、継続中だが特記すべきことがない事項は掲載していません。

●：3期目前半に開始した事業【3期目前半新規】

黒字で掲載

★：他学ではあまり行われていない、独自のアイデアに基づくユニークな事業や先進的な事業

1. 教育

●★後期入試重視による偏差値の上昇

【3期目前半の進展】2023年度入試判定基準A（ベネッセ・駿台データネット）及び河合塾算定国公立大学医学部偏差値における定員50人以上の入試区分の集計において、判定基準・偏差値がそれぞれ全国第3位となった。

●★臨床英語日本一を目指した英語教育改革

【3期目前半の進展】英語で行う医学教育の推進

・「英語で学ぶ医学・看護学（WEB）セミナー」の開催（第1回 2021年9月、第2回 2021年11月、第3回 2022年2月、第4回 2022年8月、第5回 2022年12月、第6回 2023年3月、第7回 2023年7月）

・模擬国連世界大会ニューヨーク大会への奈良医大チームの参加（医学部から唯一の参加、2つの賞を受賞）

・「医科学英語」に「即興型英語ディベート」を導入し、その集大成として「代表学生エキシビジョンディベート&100人ジャッジ」を開催

●★海外や国内の有名研究機関での学生実習（リサーチクラークシップ）

【3期目前半の進展】研究成果としてジャーナルに複数の論文が掲載（Internatinal Journal of Hematology誌、Langenbecks Arch Surg誌、Cell誌など）

●★アントレプレナーシップ育成

【3期目前半の進展】MBT特命教授・講師（長榮周作・パナソニック前会長、森雅彦・DMG森精機社長、矢野博丈・ダイソー創業者、中村勝・クオールホールディングス会長、梅岡比俊・医療法人梅華会理事長）による特別講義

●★シミュレーション教育の推進

【3期目前半の進展】・スキルスラボのシミュレーターを活用した実習の積極的な推進

・「感染症医療人材養成事業計画」に基づき整備したシミュレーターを臨床実習等で活用し、事業計画を実行

●★「アクティブ・ラーニング」による新しい授業手法の積極的導入

【3期目前半の進展】・基礎医学教育の専門科目及び統合臨床講義の全科目に反転授業を導入
・入門臨床手技実習や医師・患者関係学で小グループ講義を導入
・基礎医学（2年）、基礎医学Ⅱ（3年）、臨床医学（5年）でTBL（チーム基盤型学習）を、6年次でPBL（問題基盤型学習）を実施

●★診療参加型臨床実習の推進

【3期目前半の進展】・令和4年度に臨床実習のローテーションを変更（28週→44週）
・指導体制や実習内容（学生の1日の流れ）等を新たに規定した「診療参加型臨床実習実施要領」に則った実習を実施

●★医療人育成機構の運営

【3期目前半の進展】研究医のキャリア形成をシームレスに支援するため、「研究助教（研究医養成コース）」を設置

●教員・学生の対話の機会を充実

【3期目前半の進展】・医学科：成績不振者に対し、メンターの配置、教育部長等の面談などによりフォローアップを実施
・看護学科：学生全員にアドバイザー教員を配置し、成績下位者に対してフォローアップを実施

●【3期目前半新規】医学教育分野別評価の受審

・最新の評価基準に適合した医学教育となっているか点検を行い、必要な教育改革を行うため、教育分野別認証評価委員会及び領域ごとに専門部会を2022年4月に設置し、2024年1月の受審に向けた準備を開始

●【3期目前半新規】「デジタル医用工学」の開講

・AIやロボット医療の急速な進歩に対応し、さらに発展・開発できるような人材養成を行うため、「デジタル医用工学」を2022年度より開講

●【3期目前半新規】大学IRの導入

・学生の学修成果に関する情報や大学全体の教育成果に関する情報を的確に把握・測定のうち客観的に調査・研究を行い、教育活動の見直し等に適切に活用する「大学IR」を導入し、「教学マネジメント」を確立するため、教育開発センターに専任の教員を配置

●【3期目前半新規】医学科一般選抜（前期日程）の選抜方法を変更

・グローバルな視野から医学・医療の進歩や社会とのかかわりに関心を持ち、未だ答えのない課題等を見出し解決しようとする資質を評価するため、2024年度入試より、前期日程の個別学力検査等の学科試験を廃止し、小論文試験を実施することを決定

●【3期目前半新規】看護学教育分野別認証評価の受審

・外部有識者の教育評価を受け、教育内容の質の向上を図るため、日本看護教育評価機構による看護学教育分野別認証評価を2022年10月に受審

●【3期目前半新規】看護学研究科博士後期課程の設置

・高度な知識・技能を有する看護師を養成するため、高度な教育力・研究力を持った教員の人材養成を行うことを目的として、看護学研究科博士 後期課程の設置を目指し、2023年3月に文部科学省に設置許可申請を行った。

2. 研究

●優秀な研究者の育成支援、科研費獲得支援、若手・女性・医療スタッフの研究支援

【3期目前半の進展】・本学及び民間URAによる科研費研究計画調書に対する相談・指導、セミナー開催、科研費ニュース【Go for it!KAKEN】の発行などによる科研費申請支援策の実施

・若手研究者国際学会発表事業、女性研究者への研究支援員配置制度の拡充（週5日勤務の医員への拡大）（14名に配置）、女性研究者に対する 科研費獲得支援事業の実施（11名支援）

・若きトップサイエンティストの挑戦を掲載し、本学で国際的に活躍している若手研究者を学内外に紹介（vol.5～vol.11 7名）

PubMed対象の英文学術論文数

年度	2019	2020	2021	2022
件数	651	732	838	873

文部科学省・日本学術振興会科学研究費助成事業

年度	2019	2020	2021	2022	2023
件数	225	232	252	256	256
金額(千円)	302,680	337,500	337,160	335,600	327,100

※2019～2021 交付決定件数・額、2022～2023 交付内定件数・額

●奈良先端科学技術大学院大学との連携進展

【3期目前半の進展】相互の施設・設備の共同利用の便宜を図るなど更なる連携活性化のため、共同研究組織「連携活性化推進室」を設置

●奈良県と県内市町村が実施する健康増進事業への協力・連携

【3期目前半の進展】・新たに後期高齢者医療広域連合と共同で新規町村支援を実施（2022年度年間新規支援組織団体数7件）

●★研究成果の社会還元のため研究者の起業を支援

【3期目前半の進展】奈良医大発ベンチャー企業の設立（2社→6社）

2021年10月 MBT感染対策支援コンサルティング（株）、2022年1月（株）MBT保健医療衛生研究開発機構、

2022年6月 モルミル（株）、2022年10月（株）MBTジョブレオーネ設立

●先端医学研究支援機構を通じた研究総合力の強化

【3期目前半の進展】URAによる新たな取組の実施やテクニシヤンの増員など先端医学研究支援機構の機能を強化

●【3期目前半新規】英語論文校正費用助成事業の創設

・未来への飛躍基金を活用し、若手研究者を対象とした英語論文校正費用の助成制度を開始（2022年度：32件助成）

●【3期目前半新規】外部委員2名を含めた総合研究棟グランドデザイン策定委員会の設置

・本学が目指すべき研究の方向性を明確化し、動物実験施設、組換えDNA実験施設、RI実験施設のあり方や研究リソースを効果的・効率的に利用する方策、また研究を促進させる研究実験補助員等の配置について意見、助言を得ることを目的として委員会を設置し、総合研究棟の運用についてグランドデザインを策定

●【3期目前半新規】奈良県内国公立高等教育・研究機関における連携・協力に関する協定の締結

・奈良県内における国公立の大学、研究機関等9機関において、教育・研究活動、産学官連携、社会貢献活動等、広く連携を図り、各機関の更なる充実発展に資することを目的に協定を締結

●【3期目前半新規】奈良医大、DMG 森精機、奈良精工が、奈良県研究開発支援補助事業に共同で応募した「超音波ガイド下手術・手技器具の開発事業」の課題が採択（補助金額1億円、企業出資分と合わせて1.5億円）

●MBT関係は総合欄に記載

3. 診療

●★全国から医師を集める制度（外科マスター、ドクターNなど）

【3期目前半の進展】・外科マスター医が9名に増加（2022年7月「前立腺小線源治療マスター」、2023年3月「IVR（画像下治療）マスター」称号付与）

●★【3期目前半新規】「奈良医大（治療手技等）パイオニア」称号付与制度の創設

・新たな治療手技を開発又は開発された治療手技を継承し、その技術の普及に積極的に取り組んでいる医師に対して、「奈良医大（治療手技等）パイオニア」の称号を付与（第1号 2022年7月 称号名「上部尿路癌に対する蛍光イメージガイド尿管鏡下レーザー焼灼による腎温存療法」）

●【3期目前半新規】臨床研修センターの充実

・マッチング結果：2022年度 100%（54/54名）、2023年度 92.5%（49/53名）
・マッチング率を向上させるため、センターの機能・処遇を充実（当直室の個室化、Wifi環境整備、結婚祝金・出産見舞金制度の創設など）

・医学科5・6年生に対し、理事長自ら面談を実施

●働き方改革への対応

【3期目前半の進展】・医師労働時間短縮計画の策定、近畿厚生局への提出（2022年9月）

・特定労務管理対象機関（B・C-1水準）指定申請のため、評価センターへの自己評価シートの提出、関連規程の整備などを実施

●臨床系講座の再編・新設

【3期目前半の進展】

・血液内科学講座：血液疾患をより専門的に診断・治療・研究を行うため、呼吸器内科講座から独立して設置

・感染症内科学講座：感染症内科学の発展及び医療人材の養成に向けた効果的な組織運営を行うため、感染症センターを講座として再編

●【3期目前半新規】在宅医療支援センター設置

・奈良県内（特に中和医療圏）において在宅医療体制を支援するため設立

●【3期目前半新規】附属病院が奈良県初の「がんゲノム医療拠点病院」に指定

・中核拠点病院と連携し、診療提供、人材育成、研究開発などがんゲノム医療を自施設で完結できる医療機関となった。

●【3期目前半新規】（仮称）高度生殖医療センターの設置

・高度生殖補助医療を担うセンターを設置し、不妊患者やがん患者等のニーズに対応

（一般の病院では対応が困難ながん患者に対する妊孕性温存などの不妊に対する高度な医療を提供）

●医療費適正化への貢献

【3期目前半の進展】後発医薬品の使用割合80%を達成（県医療費適正化計画・中期目標）

●新型コロナウイルス感染症患者受入病床の確保

【3期目前半の進展】引き続き大学病院としては全国2位となる最大80床を確保し、患者を受入

4. 総合

●★MBT構想（医学による日本創生モデル）

以下の大部分は奈良医大MBT研究所（所長：細井裕司）とMBTコンソーシアム（理事長：細井裕司）の共同事業です。

●（特記1）MBTコンソーシアム会員企業 186社（2023.7.26現在）

・2023年7月、日本ファイリング（株）、（株）ハヤシ・ニットが加わり、奈良医大の下に集まっているMBT会員企業が186社となった。会員企業の本社所在地は19都府県に分布しており、大阪57社、東京55社、奈良37社となっている。医科の単科大学にすべての業種から200社に近い企業が集まる世界に例のない組織に発展した。

●（特記2）難病克服キャンペーン

【3期目前半の進展】・キャンペーンに対し6団体からの後援名義使用許可を得た。また協賛企業は37社となり、広報活動を依頼

・難病克服支援MBT映画祭の開催

（第1回 2022年1月 橿原文化会館、第2回 2023年1月 東京有楽町マリオン（野田聖子議員の講演、NHKテレビで全国放送）、第3回 2024年1月 よみうり大手町ホール（吉永小百合氏の講演など予定））

・難病への理解促進のためのMBT映画祭受賞作品の上映

（2022年3月 けいはんなプラザメインホール、2022年10月 うめきた外庭SQUARE、2023年2月 岡山県高梁市立図書館）

・難病克服支援WEBセミナー

（第1回 2021年9月、第2回 2022年3月、第3回 2022年9月、第4回 2023年3月、第5回 2023年9月（予定））

・「MBT映画祭」に参加した奈良医大学生による難病啓発映画作品「豊かに生きるマニュアル」の制作ドキュメントが、2022年6月2日(木) NHK奈良放送局から放映

・三井住友銀行と「MBT難病克服キャンペーン」の遺贈寄附に関する協定を締結（2023年2月）

●（特記3）コロナ克服キャンペーン

【3期目前半の進展】・新型コロナウイルス不活化評価は、奈良医大発ベンチャー企業「MBT微生物学研究所（株）」へ、コロナ感染対策相談は「MBT感染対策支援コンサルティング株」へ活動をシフト

・銅合金マスク（奈良医大とやまと真空工業（株）の共同開発）素材のオミクロン株不活化評価をメディア発表するとともに、附属病院内での製品販売を開始

・新型コロナウイルス感染症との戦いで、奈良医大医療チームの「Microsoft Teams」を活用した成果事例をMicrosoft社が自社ホームページで紹介

●（特記4）【3期目前半新規】経団連地域協創アクションプログラムへの参加

・経団連の地域協創アクションプログラム10項目のうちの1つ（「医療・育児・介護・移動など健やかで快適な暮らしの基盤を協創する」）となる（2021年11月）

・第1回地域協創ウェビナーで「医学による地域協創・産業創生（MBT）の全体像と地域活性化のための医学的に正しいコロナ対策の推進」の演題で講演（2022年2月）

・「医学的に正しいコロナ対策によるMBTビジネス活性化セミナー」をMBTコンソーシアム・奈良医大・経団連の共催で開催（2022年4月）

・連携パートナーが一堂に会する交流会が経団連会館で開催され、活発な意見交換を実施（2022年11月）

●（特記5）【3期目前半新規】「よい仕事おこしフェア実行委員会」（事務局：城南信用金庫）との連携協定締結

- ・奈良医大およびMBTコンソーシアムと「よい仕事おこしフェア実行委員会」（事務局：城南信用金庫）が2023年2月27日に連携協定を締結。 全国の信用金庫と連携し、医学の知識を基に社会貢献活動を展開
- ・奈良医大・MBTコンソーシアム、よい仕事おこしフェア実行委員会、(株)時事通信社、東京新聞、(株)福島民報社、明治安田生命保険（相）、ラディウス(株)の8団体が「高齢者活躍推進のための協力宣言」を締結（2023年7月）
- ・上記協定の基づく、難聴者のための窓口用軟骨伝導聴覚補助イヤホンの導入が全国の自治体・機関等に拡大（城南信用金庫、奈良中央信用金庫、東京都狛江市、宇陀市、田原本町、警視庁大崎警察署、静岡県伊豆の国市、神奈川県座間市、山口県長門市 など）

（その他の活動）【3期目前半新規】

- ・日経クロスヘルスEXPO2021にて特別セッション「これが近未来の新市場『空間×ヘルスケア2030』の全貌」を実施
- ・ウエルシア薬局にて健康ステーションを定期開催、ふれも薬局本店内に「MBTふれもカフェ」を開設
- ・全国各地でMBT講演・意見交換会の実施（北海道更別村、福島県伊達市、真美ヶ丘ニュータウン、第48回技術士全国大会（奈良）など）
- ・リハビリテーション医学講座・脳神経内科講座と株式会社三笠が共同で、(株)三笠が保有の特殊編み技術を用いて手指機能強化手袋を開発（特許 取得済み）し、メディア発表、併せて第59回日本リハビリテーション医学会学術集会（於:横浜市）でも発表。
- ・MBT研究所が参加した北海道更別村の「更別村SUPER VILLAGE構想」が「令和3年度補正予算 デジタル田園都市国家構想推進交付金」最上位 のTYPE3に採択
- ・東大阪市・花園中央公園で開催の「HANAZONO EXPO」に“ヘルスケアとリラックスをもたらすパチンコやゲーム等”体験デモで奈良医大・MBTコンソーシアムも出展参加
- ・2023年2月21～22日開催の大学・研究機関による来場者体験型展示とイノベーション関連セミナー「イノベーションストリームKANSAI」に参加
- ・北海道沼田町での健康・見守り支援事業「家庭電力データの活用が健康見守りや行動変容の促進に有効」、東京で実証実験成果を報道発表
- ・～再生可能エネルギーを最大限活用した～吹田サスティナブル・スマートタウンの施設見学・研修会を開催
- ・第36回奈良先端大産学連携フォーラム「未来社会への提案VOL.3 ～医療・健康からのアプローチ～」にMBT医工連携の形を紹介
- ・MBT関連の広報を積極的に展開（コンソーシアムのHPをリニューアル、産経新聞東京23区版朝刊にカラー広告を掲載、都営地下鉄4路線につり革広告の実施、2023年4月14日夜にNHK大阪放送局「かんさい熱視線」で地方の危機を”攻める”大学が救う！？として紹介、2023年5月16日にNHK大阪放送局の「おはよう関西」でMBTの新製品開発活動が紹介 など）
- ・MBT関連書籍「MBT なぜ単科の医科大学に全業種から200社が集まったのか？」を出版
- ・MBTロゴマーク審査委員会（委員長：渡辺同志社大学名誉教授）によるロゴマークの認定商品が2期目より6品目増加し、19品目となる。

●その他

●未来への飛躍基金：将来を担う優れた人材育成を目的とした修学環境の向上、社会貢献及び国際交流推進のため各種施策に活用

- 【3期目前半の進展】・基金創設後8年間で総額 約11.2億円（2023年3月末現在）の寄附を獲得
- ・新たに若手研究者への英語論文校正費用の助成制度を創設。また学外寄附者紹介所属に対する教育・研究活動等助成事業の助成率を引き上げ
 - ・基金に多額のご寄附をいただき、紺綬褒章を授与された方が5名となった。

●学内広報の活性化

- 【3期目前半の進展】・理事長・学長からのお知らせの学内一斉メール：vol.27～vol.31の5回
- ・学報における理事長・学長からのメッセージ：vol.78～vol.85の8回
 - ・奈良医大キャンパスだより：第11号～第13号の3回
 - ・MBTニューズレター：第101号～第226号の126回、MBTジャーナル：vol.9～vol.12の4回

●積極的な情報発信、広報の充実

- 【3期目前半の進展】 マスメディアの活用
- ・記者会見、新聞・雑誌・テレビ等マスコミ取材、テレビ出演、記事掲載など積極的にマスメディアを活用し、情報発信
 - ・大学全体の期間中の報道等件数：158件、うち理事長・学長が対象となった報道等件数：18件
 - ・「新型コロナウイルス感染症対策記録集～国内で感染した1例目の日本人陽性者の受入からの軌跡～」を特設サイトにて公開し、本学の新型コロナウイルス感染症に対する取組を発信
 - ・健康増進支援センタープレスリリース（「保健師数と COVID 19 罹患率についての都道府県別生態学的研究」新聞記事掲載19社、WEB版 公開10社、インタビュー取材3社、奈良テレビの放映）を実施
 - ・MBT関連の広報は上記に記載

●障害者雇用の推進

- 【3期目前半の進展】・奈良県自治研修所と合同で「職場のダイバーシティ推進研修」を実施
- ・大学発ベンチャー企業として、障害者雇用に関する種々の指導・企画・支援を行う株式会社MBTジョブレオーネを認定
 - ・奈良医大障害者雇用10周年記念フォーラム「私たちが主役だ！」を開催（2022年10月）

●キャンパス整備

- 【3期目前半の進展】・新キャンパス先行整備については、2024年度中の竣工に向け、建設工事を実施中。
- ・新駅を含む医科大学附属病院南側地区のまちづくりに関する連携協定を奈良県、橿原市、近畿日本鉄道（株）と本学の4者で締結
 - ・新A棟整備について、2023年3月に「奈良県立医科大学附属病院新A棟基本構想」を策定し、それを踏まえ2023年度・2024年度において、新A棟の規模や各部門の運営計画、具体的な施設整備計画等を示した「新A棟基本計画」を策定することを決定。
 - ・効率良く新A棟整備を行うため、高さ制限の緩和について橿原市と協議を進めている。

●【3期目前半新規】開学80周年記念事業

・2025年に、開学80年を迎えること、また同年には新キャンパスのオープンとなることを踏まえ、記念事業の実施に向けた取組を進めるため、(仮称)開学80周年記念事業実行委員会を設置

●【3期目前半新規】特任教員雇用管理審査委員会の設置

・特任教員の雇用の透明化及び適正化を図るため、外部委員を含む審査委員会を新たに設置

●【3期目前半新規】寄附講座等設置審査委員会の設置

・本学の寄附講座及び共同研究講座の設置の可否を決定する際にその妥当性、必要性、安全性を含めて十分に検討するため、外部委員を含む設置審査委員会を新たに設置

●【3期目前半新規】附属病院長及び名誉教授の選考に関する規程の整備

・附属病院長候補者及び名誉教授について、人格が高潔であることを明確化するため、規程改正を実施

●新型コロナウイルス感染症対応手当の支給

【3期目前半の進展】2021年度：正規職員 50,000円、嘱託職員 30,000円支給 2022年度：看護職員を除く全職員 25,000円支給

●【3期目前半新規】看護職員の処遇改善

・地域でコロナ医療など一定の役割を担う医療機関に勤務する看護職員等の処遇を改善する閣議決定に基づき、看護職員に手当を支給 2022年2月～ 4,000円/月、2022年10月～ 12,000円/月

●【3期目前半新規】妊娠・出産・育児等と仕事の両立支援

・育児・介護休業法の改正に対応するため、不妊治療のための休暇の新設、配偶者出産・育児参加のための休暇・産前産後休暇の取得対象の拡大などの措置を実施

●【3期目前半新規】非正規職員の特別休暇等の拡大

・同一労働同一賃金の観点から、一部の特別休暇、職務専念義務免除について、正規職員と非正規職員との間の待遇差の解消を図るため就業規則等を改正